

2007年

7月



これからも…

この度、あおぞら財団は朝日新聞社「第8回明日への環境賞」を受賞（受賞理由：公害のない街づくりに向けた多様な実践活動）しました。この賞は、環境保全の幅広い分野での実践活動の顕彰を目的に設立されたもので、今回は、215件の応募から1氏3団体が受賞しました。

財団設立から10年、みなさまのご支援・ご協力の中で取り組んできた活動が社会的にも認めていただけたのだと思います。改めて、感謝申し上げますとともに、今回の受賞に恥じない取り組みを今後も続けて参りたいと思います。今後ともよろしくお願ひします。

●目次

特集 公害学習とESD

〈SHITEN〉「公害」教育の行く末	高田 研	2
近畿地域ESDフォーラムを開催しました	谷川 毅	4
ESDフォーラムに参加して	辻 幸二郎	5
小学校5年生での公害学習	天野憲一郎	6
「公害」という過酷なものが一日でも早く多くの地域から…	内藤 雄仁	7
「買い物」から「地球環境」がみえる		8
「西淀川公害」を次世代に		9
〈連載〉「デ・グスタ・エスパーニャ?スペインはお好き?⑦	田村 隆好	3
〈リレーエッセイ〉公害史を追って松山へ	宮本 憲一	10
〈忙中一筆〉みんながいきていくために考えねばならない…	西口 勲	12

視点 SHITEN

環境再生にかかわる課題を、さまざまな視点から自由に論じるコーナーです。

特集 公害学習とESD

国連持続可能な開発のための教育の10年（ESD）が始まって3年になります。ESDは環境教育の新しいかたちとも言われています。

あおぞら財団が行う公害・環境学習は設立当初から、いろいろな担い手と一緒に学習プログラムを作成し、まちづくりに主体的に関わる人材の育成をめざして活動してきました。ESDとはどういうものか。公害教育との関係など、これまでの活動とあわせて紹介します。

「公害」教育の行く末

高田 研

2007年3月『環境教育指導資料』小学校編が新たに文科省より出された。委員には日本の環境教育のオピニオンリーダーである阿部治等がいる。「国連持続可能な開発のための教育の10年」（略してESD）の流れを受けての改定であった。「公害」という文字はその内容にも実践事例にも見出すことは出来ない。ただ付属年表の環境教育の欄に公害対策研究会の発足が記載されており、日本の環境教育が公害教育から始まっているということが年表から僅かに伺える。

環境教育の対象ではない「公害」

小学校で「公害」教育の根拠を現行の『小学校学習指導要領（平成10年12月告示・平成15年12月一部改正）』に見ると、社会科の5年生の目標（1）産業と国民生活との関連（2）環境の保全の重要性（3）調査・資料の活用・表現・社会的現象の意味（以上要約）の3つが挙げられており、内容の（4）「我が国の国土の自然などの様子について、次のことを地図その他の資料を活用して調べ、国土の環境が人々の生活や産業と密接な関連をもっていることを考えるようにする。」

その小項目として「イ、公害から国民の健康や生活環境を守ることの大切さ」がある。その内容の取り扱いとして「イについては、大気汚染、水質汚濁などの中から具体的事例を選択して取り上げること。」となっている。が環境教育指導資料の5年生社会科の「内容と環境をとらえる視点との関係表」に公害は環境教育の対象として抽出されていない。

「環境教育は公害教育とは違う。」

環境教育指導資料において、社会科における指導事例として5ページにわたって詳述されているのは森林の環境教育である。森林に関する事項は小学校学習指導要領では公害の次の小項目に「ウ、国土の保全や水資源の涵（かん）養のための森林資源の働き」とされている。国は京都議定書の温室効果ガスの削減目標値である6%のうち、森林吸収量を全体の3・8%（1300万炭素トン）として計算し、森林の約23万haの追加整備に必要な予算765億円を措置している。「日本の学校教育での環境教育が公害教育から始まったのは不幸な出発であった」という国際生物化学連合フェグリー会

長の言葉を『環境教育のすすめ』（1987）という本の冒頭で紹介したのは、初代環境教育学会会長であった沼田眞であった。社会科の領域に組み込まれた「公害」という「環境破壊の一つの問題」領域の教育ではなく、自然／自然と人間とのかわりという視点を「環境教育のベースライン」とするべきであるという氏の主張である。それは環境教育にかわり始めた人々にとってバイブル的な本であった。

環境教育学会が発足する1990年当時、公害教育とは無縁であり、「環境教育」という新たな教育領域に参入した学者、教師、民間教育事業者たちの間では「環境教育は公害教育とは違う。」という差異を強調する言葉がよく聞かれた。被害者／加害者というこれまでの二項対立の教育ではないという主張は環境教育に「偏向教育」の烙印を押されまいとする言説となっていた。

反省・点検、あらたな戦略づくりへ

文部省の公式な環境教育指針となる『環境教育指導資料』が初めて示されるのはリオ・サミットが開かれる1991～1992である。国際的な枠組みとして、また個々の生活の問題として取り扱われる環境教育が、日本の公害教育に取って代わっていく過程については福島達夫『環境教育の成立と発展』（1993）に詳しく描かれている。



近畿地域ESDフォーラムでは参加者を交えて活発な議論が交わされた(2007年3月7日、アビオ大阪)

環境教育学会において、「公害」教育を取り扱う研究発表は近年稀有である。昨年、今年の発表はあおぞら財団の公害教育を研究していたものであった。環境社会学会誌の創刊号(1995)において宮本憲一は「足もとから地球環境問題を考える」という文を書き、グローバルズムに走る日本の状況に警告する。12年

経た今、環境教育においては現実のものとなっており、また氏が指摘する蓄積型の公害の問題は更に深刻な局面を向かえている。

この事態を環境教育に携わる一人として反省し、西淀川の教育に長年取り組んで来られた先生方、研究員の皆さんと共に、「公害」教育の教育現場における現状を今一度点検し、あらたな戦略づくりに取り組まなければならないと考えている。

(たかだ けん・
都留文科大教授
財団理事)



スペイン最高峰のテイデ山

今回はお酒関連ということでスペインワインといえばRiojaが有名ですが、Rioja以外に旨いワインは山ほづ、赤ではToro、Riberia de Duero、白ではRueda、Ribera de Duero、等が挙げられますが酒屋で自分好みのスペインワインを探してみたいかがでしょうか。

(たむら たかよし)



田村 隆好

①スペインワインはいかが?

いよいよ本格的な暑さを迎え、昼間町に出るといって馬鹿は外国公使

今回の物件は5階エアコンなし、日本では有り得ない大きさを誇る蚊と、熱帯夜の恐怖におのきながら夏を乗り切る所存です。話が脱線しましたが、こゝ暑いとどうしても飲む機会が多くなるのがビール等のアルコール、スペインはヨーロッパ諸国の中でアルコールの消費量が多い国です。

るSerbia(セルビア)は、サルモレホやカタツムリの美味しい時期になってきました。さて私の近況はといいますと、仕事先の女社長や大学生協でピン(アパート)探しを手伝ってもらい引越しを行いました。もちろん私も外国人ですから40 近い炎天下を汗だくになりながら、荷物を背負うこと数回

そんなスペインでアルコールの風物詩とも言えるのがBodega(ボテジョン)、若者が酒を持ち合って道や広場でワイワイ飲む、日本風に言えば桜のない花見。このBodega、「健康(アルコール中毒)、治安(ケンカ、麻薬)、美感上良くない(ゴミ)」ということで厚生大臣から厳しく取り締まるようお達しが出され、Serbiaでは昨年禁

止されています。通達が出された当初は国家警察の取り締まりも厳しく町中に見る機会が少なくなりまして。とはいえ、約束は破るためにあると考えている彼ら、今年はずきんと守れるのでしょうか?

近畿地域ESDフォーラムを開催しました

谷川 毅

近畿地域ESDフォーラムは、ヨハネスブルグサミットで日本政府が提案した「国連持続可能な開発のための教育（ESD）」を地域に根ざしたものにするため、ESDに関する考え方を伝え、近畿地域でESDを促進するために2007年3月7日に開催しました。

地域のさまざまな立場の人たちが

はじめに、基調講演として、帝塚山学院大学教授の岩崎裕保さんが、ヨハネスブルグサミットでESDが提案されるまでの国際的な経緯動向について講演しました。また、ESDに取り組んでいる地域の活動発表をしました。大阪府豊中市域からは（特活）とよなか市民環境会議アジエンダ21の井上和彦さんから、子育てをする「赤ちゃんからのESD」などの取組みを、兵庫県西宮市域からは（特活）こども環境活動支援協会の添田晴雄さんから、ESDを推進する方がそれぞれ講師・受講者になった。学びあいの取組みなどを紹介しました。いずれも、地域のさまざまな立場の方々が「持続可能な地域」をキーワードに一緒になって取組みを行っています。

リソースを有機的につなぐESD

続いて、上記3名に大阪府立西淀川高等学校の辻幸一郎さんを交えて、岩崎さんのコーディネートでパネルディスカッションを行いました。まず、辻さんが西淀川高校での環境学習の取り組みについて報告しました。生徒のエンパワーメント、つながりの中で生きるというESD的な視点を入れた内容です。次いで、添田さんからは甲子園浜の例が出されました。浜の埋め立てが住民の反対もあって中止になったが、代わりに沖合いには埋立地ができてしまった。ただ、そこには環境に配慮した市の下水処理場ができ、その結果水環境が改善し、魚や野鳥が戻ってきた。例えば埋立地1つとつても、必ずしも問題なのではなく、ESDを進める際に地域のさまざまな要因が絡んでくることが述べられました。井上さんからは、行政やテーマ別に地域で取組む団体が縦割りではなく、ESDをキーワードに、地域の人材や団体などのリソースを有機的につなげるESDリソースセンターづくりの取り組みの紹介がありました。パネリスト同士のディスカッション後は、参加された方々とパネリストのやりと

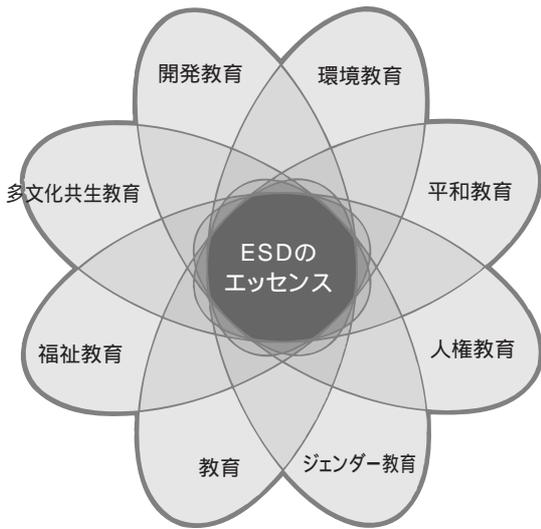


座談会で発言する谷川さん

りも活発に行われました。

持続可能な社会へつなぐ

このフォーラムでは、ESDの存在を伝えることがそもそもの目的でした。しかし、ESDという言葉の普及でなくて、実践すること。ESDの「タネ」はどの地域にもあること。それを無理なくできることを継続して、社会を少しずつ変えていくこと。その原動力は人と人とのつながりであり、それがつながった人や地域の活性化、ひいては持続可能な社会につながる。その方法としてESDがあることも共有できたと思われます。このフォーラムを機に、近畿地域でのESDの取組みの促進が期待できます。（たにがわ つよし・きんき環境館スタッフ）



ESD (Education for Sustainable Development) とは
 持続可能な開発のための教育をESDといいます。「この地球を未来へつなぐ学び」ということもできます。私たち一人ひとりがさまざまな「つながり」の中で生きていることに気づき、よりよい社会づくりに参画するための力をはぐくむ教育です。環境だけでなく、開発、多文化共生、福祉、人権、平和、ジェンダーなど様々なテーマの教育活動をつなぐ新しいキーワードです。

ESDフォーラムに参加して

辻 幸二郎

びったりはまったESD

私のESDとの出会いは、2005年1月に関西学院大学千刈キャンパスで行われた「環境教育千刈キャン」で村上千里さん(現ESD「事務局長」)のワークショップにたまたま参加したところから始まります。そこで「ESDの概念づくり」をまる1日かけて行っただけです。現在ESDの説明図としてよく使われる「ESDお花理論」の図の原形を作る作業を行いました。そして、この体験は私にとっては非常に意味のあるものでした。

というのも前任校では学校改革への議論が活発で、さまざまな取り組みを行ってききました。教育内容についても「高校卒業時に本当に必要な教養って何だろう」というところから、教員間でいろいろな議論を行いました。「彼らがこれからの社会を作っていく市民」という観点からの教養が必要だという意識を共有するようになりました。英語や数学、情報処理などの知識や技能も必要ですが、人権や福祉的な感性、多文化理解、環境といったことをきちんと学ぶことはもっと大事ではないか、ということが話し合われていたのです。その中でESDが私の中でびったりはまっていききました。

本質的な「何か」を教材に

もちろん現実にはそんな簡単なものではなく、目の前の生徒はいろいろな厳しい状況を抱えています。前任校もそうでしたが、現在の西淀川高校はもっとと極端にそうした状況、言ってみれば今の社会や学校制度のもつ矛盾を多く抱えています。そんな状況ですから、彼らには難しい話や高尚なことは通じないし、むしろいやがられることも多いです。



ESDフォーラムで発表する辻さん

では彼らには何をするのも無理なのかというと、意外にそうでもありません。全然見知らぬ外国のひどい状況におかれた子供たちや動物たちの姿を見せると、すくしい反応が返ってきます。難しい言葉や説明は伝わりにくいものの、この本質に関わることはストレートに伝わっていくのです。こうした彼らに通じる本質的な「何か」をつまやく教材にして伝えることが、本校におけるESDの活動につながっていくように思っています。こちらがどのような目標を持ち、どのような観点から、個々の題材をどう教材化し伝えていくか、このことは私たちの意欲と努力にかかっていると感じます。

(つじ こうじろう・大阪府立西淀川高校教諭)



環境学習パネル～西淀川の煙～

小学校5年生での公害学習

ビデオ・手渡したいのは青い空〜未来からのメッセージを使った授業

天野憲一郎

「あおぞら財団」で「手渡したいのは青い空」〜未来からのメッセージ〜という公害学習用のビデオが作られ、西淀川区の小学校等に配布されました。公害病の患者さんの生の声や西淀川の歴史を知るうえで画期的なビデオに仕上がっていると思えるのに、それを使って授業をした話は聞いたことがありません。非常に残念なことです。

指導案の中に入れること

1. 5年生の教育課程の中への位置づけを明確にする。
2. 以前作った公害パネルの写真を使うこと。
3. ビデオの内容に注目させるため、「歌島橋交差点」や「佃小学校の5年の教室」
4. 主人公「浩太」と「未来少女」との出会い、というストーリーの紹介。
5. 最後に登場するアグネス・チャンを紹介する。(今の5年生はアグネスがどういう人物か知らない。)
6. 理解の度合いを知るために感想文を求め、書きにくい児童への「書かせる手だて」を授業の中で配慮する。
7. 今後の社会科の授業への関連を提起する。
8. 今、話題になっている映画「不都合な真実」と毎日新聞07・2・23付けの「環境特集」記事の紹介をする。

じつは以前にも同じ体験をしているのです。西淀川公害を教室で教える場面で必要な写真をパネルにするための作業に参加させていただく機会を得ました。かなり長い時間をかけて、教室での学習に必要と思える資料を検討して集団で討議して作り上げ、区内の全小・中学校へ配布されました。しかし、ほとんど見向きもされないまま学校の「資料室」などに放置されるだけになっているのが現状のようです。勤務校でも同じでした。公害学習のための患者さんによる「出前講座」や財団での説明会などでは使われた例があるようですが。その現状について、いくつかの改善提示の必要がありますが、その一つとして実際に「手渡したいのは青い空」のビデオを使って自分が5年生で授業をし、その指導案と授業そのものの映像化を行なう必要がある

5年生の2クラスとも授業をさせていたことができ、5年生の担任から「よく

分かった」と好意的に評価をされ、以下のメモも書いていただくことができました。若い担任教師のこのメモに、授業のねらいがある程度達成できたのではないかと感じられ、貴重な体験だったと思っております。

- ・ビデオの中で歌島橋交差点等、子どもたちが知っている建物が出てきて、興味を持ち身近に感じていた。
- ・感想を書くとき、細かい指示や例をあげられていたので、文章を書きにくい子どもにとって良かった。
- ・例として、作文の途中まで読ませることで、文章を書き進めるきっかけになっていた。
- ・何よりも、自分達の住んでいる地域の公害なので、人事ではなく、身近な問題として考えることができた。
- ・今週から四大公害について学習するので、事後の学習の導入に最適だった。

私自身、知らないことも多く、大変勉強になりました。本当にありがとうございました。

なお、授業をして自分が感じたことを書いてみると、

1. 公害写真のパネルは大きく液晶のプロジェクターで提示したほうが良かった。
2. 1時間の中に多くのものを入れてしまったが、何を削るか検討したい。授業時では、みな必要と感じていた。
3. 社会科に興味を持つ現場の先生や環境問題の専門家の助言もほしかった。



いろんな食材、買い物先、交通手段を選びます



「買い物」から「地球環境」がみえる

1970年チームと現代チームに分かれます

- どこに買い物に行きますか？
近所のお店
郊外のショッピングセンター
- 何に乗って買い物に行きますか？
徒歩自転車
バス
車（1970年チームはなし）
- 家族4人分の夕食の買い物をします
1970年 550円
現代 1,400円
- 作ったつもりで夕食の絵を描きます
- 産地ごとに地図にシールをはります
- フードマイレージを計算します
- 交通手段ごとのCO₂を計算します

ゲームの おすすめ方

フード マイレージ とは

界一です。生産地と食卓の距離が遠くなる

「フードマイレージ」とは、食べ物の生産地から消費される食卓までの「距離×重さ」を表しています。日本のフードマイレージは世

子どもから大人まで楽しく学べる、食と交通と環境が学べるフードマイレージ買物ゲームができました。
楽しい「参加型教材」を体験して、買物がかわり、行動につながる学習プログラムです。
さあ、めしあがれ！

こんな時に 使えます

小・中・高の社会科・家庭科・総合的な学習の時間で使えます
今年度に入ってから
桃山学院大学、大阪経済大学、四条畷高

環境学習
開発教育
国際理解教育
食育の学習
食物流通の学習
消費者問題の学習
小・中・高の社会科・家庭科・総合的な学習の時間で使えます

ほど輸送時に二酸化炭素(CO₂)や二酸化窒素(NO₂)などの温暖化ガスや大気汚染物質がたくさん排出され、環境に悪影響を及ぼします。

教材の説明 レットライ!

ゲームに必要なテキストや道具はすべてそろっています。
あおぞら財団にお問い合わせください。
カードセット
産地地図

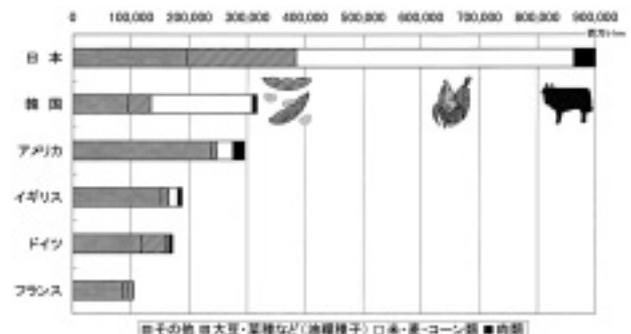
フードマイレージ買物ゲーム 使い方ガイド
HPで公開しています
<http://www.aozora.or.jp/foodmileage>
フードマイレージ買物ゲーム 資料編

貸出（無料・送料負担 ・ ） 配布（冊子 ・ ） します。

栄養士になるために私たちは学んでいるけれど、栄養価だけでなく、環境のことも考えて、指導していかないといけないんだと思った。

（夙川学院短期大学にて）

校、いずみ市民生協、ESDとよなかど幅広く活用されています。



フードマイレージの展覧 - 中田哲也「食料の総輸送量・距離(フード・マイレージ)とその環境に及ぼす負荷に関する考察」『農林水産政策研究』No.5、2003.12 より作成

フードマイレージ 買い物ゲームができるまで



2003年のあおぞら財団のボランティアが企画運営する道路環境市民塾にて、誕生したゲームです。「自動車とのつきあい方をかんがえる」というテーマの講座企画を考えていた松井克之氏(当時・西淀川高

校教諭)と、松村暢彦氏(当時・大阪大学助手)によって、考え出されました。大阪市中央卸売市場の年報を使ったことにより、国内輸送によるフードマイレージの算出が可能になりました。当時は実際に買い物に行くというプログラムになっていました。2005年にフードマイレージ教材化研究会を結成し、このプログラムを簡素化しようということになりました。交通環境学習の観点から作成してきましたが、家庭科・国際理解教育などの視点からも取り組めるということから、現場の先生方が参加し、いろいろな視点からアプローチできるESD(国連持

大阪経済大学で

どなたも初対面なのに、懐かしい人に久しぶりに会うように迎えてくださいました。ゆっくりと噛みしめるように、被害とたかかしの日々を語ってくださいました。それは、真実の、生活の、肩を寄せ合ってつながりあってこられた歴史でした。あたりまえのことをあたりまえに闘い続けるために歳月を生きてもらえた方々の、その平凡さの深いところにある、「人間のあたたかさ」に心をうつされました。

続可能な開発のための教育の10年)的な教材になりました。(林美帆・事務局)

メンバー

岡本真澄(大阪府立清水谷高等学校教諭)

辻幸二郎(大阪府立西淀川高等学校教諭)

中塚華奈(NPO法人 食と農の研究所)

中西泰代(大阪市立八幡屋小学校教諭)

原田智代(せいわエコ・サポーターズクラブ)

藤井久美子(橿原市立大成中学校教諭)

松井克行(大阪府立三島高等学校教諭)

松村暢彦(大阪大学大学院准教授)

小平智子(あおぞら財団・事務局)

林 美帆(あおぞら財団・事務局)

藤江 徹(あおぞら財団・事務局)

「西淀川公害」を次世代に

被害の語り部ライブラリーができました!

空気の汚れによって奪われた健康・あたりまえのくらし、西淀川公害の被害を患者の証言で綴る「大気汚染公害被害の語り部『ライブラリー』(DVD10巻)がこのほど完成しました。

肉声で、生活の場で

あおぞら財団は、活動の原点でもある西淀川公害の被害の実相とたたかいた後世に伝えるため、西淀川公害患者と家族の会と協力して、患者自身による被害の証言活動「語り部」に取り組んできました。学校や地域での出前講座、研修や修学旅行などで

の「二度と自分たちのような被害者をつくらないで」の訴えは「手渡したいのは青い空」の願いとともに、欠かせない存在です。ところが近年、「語り部」も高齢化、亡くなったり体力の衰えにより、これまでのような活動ができなくなってきました。貴重な被害の証言を肉声で、できるだけ生活の現場で記録したい 詩人で立命館大学講師の佐伯洋さんに聞き手をお願いして、2005年2月に収録開始。

感謝と尊敬の心で、佐伯洋さんの話

「こんにちは」と玄関にお訪ねすると、

おひとりお一人のお話は「昔、こんなことがあった」という、過去のひき出しから取り出した「お話」ではありませんでした。子や孫の世代に「青い空を手渡したい」という未来にむかう足どりでした。いま、「今を生きて」「いらっしやる姿に尊敬の気持ちに胸にふくらんできました。ひとつひとつのエピソードに、道なきところに道を拓

いてきた、やさしさとつよさが刻みこまれていました。毎回、感謝と尊敬の心でお宅をおいとましました。

11人の「語り部」

ライブラリーには次の11人の患者が登場します。(敬称略)

岡前千代子 塚口アキエ 北村ヨシエ
平松嗣夫 和田美頭子 竹内寿美 山口
ヤスノ 岡崎久女 酒井政一・美代子 永
野千代子

なお、DVDは西淀川・公害と環境資料館(エコミューズ)で公開(要予約)するほか、環境学習用教材として貸し出します。お問い合わせは財団まで。

(上田敏幸・財団職員)

ほっと ニュース

**道路環境市民塾プレ
企画「これで宴会?!
西須磨お花見ツアー」
開催**

4月21日(土)、道路
環境市民塾プレ企画「こ

れで宴会?!西須磨お花見ツアー」を開
催、道路環境市民塾運営委員のメンバ
ーなど13名が参加し、西須磨都市計画
道路公害紛争調停団の宗岡明弘さんら
に案内していただきました(写真)。

西須磨地区は風光明媚な住宅地。そ
の真ん中を貫く3本の都市計画道路の
事業認可を受け、神戸市は整備に着手。
猛反対した住民との交渉の結果、一部
の区間では6車線の道路が2車線に減



りました。予定されていた車道用の用
地は歩道となり、住民参加でデザイン
された、植栽豊かなゆつたりとした空
間が広がっています。また「須磨離宮
公園」にて市民塾運営会議を開き、今
期5年目をむかえる道路環境市民塾の
あり方について意見をかわしました。

一緒に走りませんか? 自転車文化タウンづくりの会

安全で安心して自転車が走れるまち
づくりを目指し、昨年11月に発足した
『自転車文化タウンづくりの会(愛
称・募集中)』、今年度はまず自転車ま
ちづくりをすすめる仲間づくりを目標
としています。

モビリティウィークにあわせた9月
24日(祝・月)『自転車まち巡りツア
ーイベント』を、開催予定。街中の魅
力に触れつつ、自転車で走る楽しさを
PRします。準備企画として、7月1
日(日)『自転車まち巡りツアープレ』
を実施します。

そして11月~12月には、自転車まち
づくり交流イベントを予定していま
す。
イベント以外にも、自転車走行環境の
調査や自転車グッズの開発などもすす
めていきたいと考えています。

リレーエッセー

日本の公害の性格は、歴史の中で
生み出されたものです。歴史の教訓
に学ばなければ、石原産業のように、
何度でも失敗を繰り返しかえ
すのです。四日市公害裁
判の時に、亜硫酸ガスの
被害は明治以来、くりか
えしておこっていること
を説明し、コンビナート
の企業が亜硫酸ガスの被
害と対策を知らなかった
といって、責任を回避す
ることはできないことを
証明しました。その頃は
公害史の研究はほとんど
なかったため、資料を探
すところからはじめねば



写真は戦前の四阪島精錬所。
深刻なSO₂(二酸化硫黄)汚染事件の発生地。

公害史を追って松山へ

宮本 憲一

なりませんでした。
戦前の亜硫酸ガスの大気汚染で、
半世紀にわたる劇的な被害者と会社
の対立と画期的な技術開発

がおこなわれたのは、愛媛
県四阪島の住友金属鉱山の
事件です。私は四阪島に渡
って、会社がすでに占領下
で焼却したとしていた資料
をみつめました。会社はこ
の事件でよいこともしたが、
悪いこともしているのだ、
この技術者が心血をそそい
だ資料は非公開にしたいと
考えました。しかし私が発
見した以上、無下にみせな
いとはいえずに、一日だけ
貸すと言ってきました。公
害は企業秘密のひとつです
が、戦前の事件ですら秘密
にしたいというのにはおど
ろきました。1971年の
ことです。

それ以来、ひまがあると、
この事件の種々の資料をあ
つめており、この間も松山
にいった、当時、人体の被
害はなかったかをしらべま
した。来年にはこの事件も
ふくめて、戦前の公害史を
まとめたいと思っています。
みやもと けんいち(大
阪市立大学名誉教授、元滋
賀大学学長、財団理事)

- 3日(火) 拡大事務局会議
- 4日(水) 西須磨見学(公害調停)
- 5日(木) 【仮称】チャリンコまちづくりの会(大阪本部)定例会
- 6日(金) 大野川緑陰道路の教材づくり研究会
- 9日(月) 第12回西淀川地域再生研究会
西淀川公害患者と家族の役員会
「いきいきリラックス教室～やっつてみよう!よさこいソーラン」
- 10日(火) 事務局会議
- 11日(水) ECOまちネットワークよどがわ運営委員会(参加)
- 12日(木) てづくりせっけん教室
資料館定例会議
- 13日(金) 朝日新聞「明日への環境省」受賞発表
- 19日(木) 事務局会議
第23回尼崎道路連絡会(参加)
- 20日(金) 【仮称】チャリンコまちづくりの会(大阪本部)企画会議
- 21日(土) 道路環境市民塾 これであんかい?! 西須磨お花見ツアー
- 23日(月) 事務局会議
CASA地球環境大学企画会議(参加)
- 24日(火) 第8回「明日への環境賞」贈呈式(朝日新聞社主催)
- 25日(水) 第43回西淀川公害に関する学習プログラム作成研究会
- 26日(木) 菜の花プロジェクト視察(in八尾市)参加)

4月

事務局日誌

5月

- 7日(月) 第13回西淀川地域再生研究会
拡大事務局会議
- 9日(水) エコまちネットワークよどがわ運営委員会(参加)
- 10日(木) 倉敷市保健福祉局保険部医療給付課公害認定給付係ヒアリング調査
ボランティアの日
- 11日(金) NPOからの公募提案委託事業～NPOとの協働促進モデル事業～説明会(参加)
- 13日(日) 中津コープ高速道路に反対する会第37回住民大会(参加)
日本エコミュージアム研究会関西例会「エコミュージアムは博物館か?」
-博物館法改正へのエコミュージアムからの提言」(参加)
- 15日(火) 資料館定例会議
- 16日(水) 事務局会議
- 21日(月) 監査
フードマイレージ教材化研究会
- 22日(火) 事務局会議
- 24日(木) 桃山学院大学産業構造論講義(講師:林)
- 28日(月) 子どもの参画べんきょう会
地球環境基金説明会(参加)
- 29日(火) 事務局会議
中央環境審議会「21世紀環境立国戦略特別部会」第10回会合(傍聴参加)
微粒子状物質健康影響評価検討会(第1回)X(傍聴参加)
道路環境市民塾運営会議
- 30日(水) 内藤雄仁氏インターン開始(～6/29)
アスベスト(石綿)国賠訴訟第5回弁論(参加)
- 31日(木) 改正税法説明会(参加)
大阪公害患者の会連合会大阪市交渉(参加)
第36回公害環境デー実行委員会発足委員会

お知らせ

矢倉海岸定例探鳥会(日本野鳥の会大阪支部との共催)
*この日は恒例の清掃日です。
軍手・ゴミ袋等ご持参ください。
なお8月の探鳥会はお休みです。また、次回9月からの探鳥会は、毎週第1土曜日となり、9月1日(土)開催です。
日時 7月21日(土)午前9時30分～12時30分頃(現地解散)
集合 阪神電鉄西大阪線「福」

場所 駅改札口午前9時30分
矢倉緑地公園

まちのお医者さんになろう2007
セミのぬげがら調べ in 大野川緑陰道路
日時 8月18日(土) 午前10時
午後2時30分
申込締切 8月16日(木)
集合 エルモ西淀川
場所 大野川緑陰道路
定員 100名(小学生 要申し込み、申し込み先はおおぞら財団へ)
参加費 100円(保険料)
企画協力 子どもの参画べんきょう会

おねがいとおしらせ

リベラへのご意見・ご要望または投稿をお待ちしています。また、メール通信「おおぞらEXPRESS」を開設しています。ぜひご利用下さい。
配信を希望される方は
<http://groups.yahoo.co.jp/group/aozora-mail/>
から登録できます。

お礼

寄附・寄贈者(敬称略)
左記の方々から寄付・寄贈をいただきました。(2007年4月・5月)心から御礼を申し上げます。
天野憲一郎、入江智恵子、小田康徳、笠井利彦、小林光、重岡伸泰、辻幸二郎、鳥山大樹、中塚華奈、中西泰代、林宏、藤井久美子、松井克行、森山正和、公害地球環境問題懇談会、立命館大学国際平和ミュージアム
入会ありがとうございます
(2007年4月・5月分 敬称略)
蔵本幸治、児玉和人、佐野郁夫、堂見敬雄

【編集後記】

本号で紹介しているフードマイレージ教材が好評です。夕食づくりを通して、環境にかかる負荷を考えようという参加型ワークショップで、小学生から社会人まで楽しく学ぶことができます。教材づくりには多くの教育現場の先生が関わり、ワークショップを通して参加者に、「食」から「地球環境」が「見える 考える 行動する」工夫がちりばめられています。担当するH職員は、シェフの「衣装」に身を包み、きょうもファシリテーターとして奔走の日々が続きます。(T)

『Libella』No.97 2007年7月号(隔月1日、年6回発行)
発行所 (財)公害地域再生センター(おおぞら財団)
編集人 上田敏幸

大阪市西淀川区千舟 1-1-1 あおぞらビル4階
Tel.06-6475-8885 Fax.06-6478-5885
<http://www.aozora.or.jp/>
E-Mail webmaster@aozora.or.jp

印刷所 あゆみコーポレーション
定 価 一部400円(郵送料込み)

会員の購読料は会費に含まれています。

郵便振替口座 00960-9-124893(加入者名 あおぞら財団)
乱丁・落丁はお取り替えます。本紙掲載記事の無断転載を禁じます。



にしぐち いさお
西口 勲

1938年東大阪生まれ。元大阪市立中学校教諭（理科）、1961～80年歌島中学校勤務。西淀川の公害をなくす運動や公害・環境教育に取り組む。あおぞら財団・西淀川公害に関する学習プログラム作成研究会、大野川緑陰道路の教材づくり研究会のメンバー。

みんながいきていくために考えねばならない 環境問題を取り上げた学習が、大いに必要

サマーキャンプで知った喘息

先日、歌島中学校の教え子の学年同窓会があった。1967年卒業の55歳のおじさん、おばさんである。出来たての講堂で上演した教職員劇の録音テープをなつかしく聴いた。公害のひどい時で、文化祭では演劇部が、喘息で苦しむ生徒を描いた創作劇「枯れない葉」を熱演した。私が顧問の理科部は環境調査を連続して講堂で発表したのを思い出す。「あなたは知っているか、ジュースの中味を」、「校区の大気汚染」、「淀川の水质と私たち」等である。私の受け持ち生徒に喘息がひどく、西淀病院から

通学する子がいた。学校に来た日は比較的元気なので、発作の苦しみを実際に知ったのは、西淀病院の人たちと20年間続けた喘息児サマーキャンプの夜であった。昼元気に遊んでいた子が、夜にヒューヒューゼイゼイと別人に代わるのである。

“なぜ”を考える生きた学習

現在、西淀川の空は青く、見た目には大気汚染はひどくなさそうに見える。子ども達も公害は過去のもののように思っている面がある。しかし、昔のように赤茶色の空やアサガオの花が変色する硫酸の雨や真っ黒い粉塵はなくなったが、目に見えない多数の化学物質で、大阪市内の喘息の子どもの数は近年増え続けているのである。大気汚染は決して終わっていない。自動車の排気ガスが主原因となり、都市全体に広がっているのである。

しまつてはならない。“なぜそんなことが起こるのか”をみんなで考えることから、生きた学習に発展していくのである。

土・水・大気の大切さを子どもたちに

大阪教育文化センター環境教育部会では、小・中・高・大学の教師たちが集まって、5年がかりで「みんなで生きるための環境教育」教材集（全5集）を作成した。「土つてなんだ」、「水と私たちのくらし」、「大気、地球と命を守るうすい膜」、「私たちの生活とエネルギー」、「食べるこつて大事だね」である。それぞれB4版約100枚で、左に説明文、石に絵や資料を載せ、そのまま印刷して、授業に使えるようにしたものである。

私は全国の公害被害地を訪ねて毎年夏に開かれる公害・環境教育の全国研究会に1970年代から参加してきたが、官制の環境教育とのちがいは、公害問題をしっかりとらえるかどうかである。ごみ拾いや資源回収、心がけ主義、知識習得に終わって

今、小・中学校では自然科学の学習が体系的、系統的でなく、学年毎のこま切れになっている。理科嫌いが増え、理論的、科学的に考えることが苦手とする子どもが多くなっている。生活と結びついた生きた学習が、みんながいきていくために考えねばならない環境問題を取り上げた学習が、教科や総合学習で大いに必要である。この教材集が全国で普及してほしいものである。

